

2024 年度 日本社会教育学会 六月集会 プログラム

2024 年 6 月 1 日 (土) 13:00 ~ 18:15 (受付 12:30 ~)

6 月 2 日 (日) 9:00 ~ 16:40 (受付 8:30 ~)

6 月 1 日 (土)	受付 12:30 ~	13:00 ~ 16:00	16:15 ~ 18:15	18:30 ~
		プロジェクト研究 「社会教育における余暇・ レクリエーションの再検討」 「多文化・多民族共生を目指す 社会教育の挑戦」	社会教育士 特別 プロジェクト	全国 理事会
6 月 2 日 (日)	受付 8:30 ~	9:00 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:40 ~ 16:40
		プロジェクト研究 「男女平等・ジェンダー 公正をめぐる課題と社会 教育研究の可能性」	昼食 会場校企画	ラウンド テーブル ① ~ ③

◇会 場 立教大学 池袋キャンパス (4 頁に地図)

◇受 付 6 月 1 日 (土) 12:30 ~ 14 号館 ※各日会場が違いますのでご注意ください。
6 月 2 日 (日) 8:30 ~ 5 号館

◇参 加 事前参加申込みのみ (当日の参加受付はありません)
参加費についても事前振込
※事前参加申込み方法については 2 頁参照のこと

◇昼 食 昼食は各自でご準備ください。
※大学構内にコンビニ (ローソン) あり、大学付近にもコンビニが複数店舗あります。
なお、大学内第一学食の営業は土曜日は 14 時 30 分まで。日曜日は休業です。

【各地の研究集会】

◎東北・北海道研究集会 (東北大学)	5 月 25 日 (土)・26 日 (日)	11 頁
◎東海・北陸地区社会教育研究集会 (オンライン開催)	7 月 6 日 (土)	12 頁
◎関 西 研 究 集 会 (大阪市立総合生涯学習センター)	6 月 9 日 (日)	13 頁
◎中国・四国地区社会教育研究集会 (岡山市立西大寺公民館)	7 月 7 日 (日)	14 頁
◎九州・沖縄地区六月集会 (別府大学)	6 月 22 日 (土)	15 頁

ご注意 天候や感染症などの影響により、日程・会場の変更や取止め等の場合がありますので、
参加される方は必ず事前に学会 HP で確認するようお願いいたします。

□六月集会の事前参加申込について

六月集会参加は事前申込みとさせていただきます。

参加希望の皆さまには、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます。
(オンラインで手続きが出来ない方は、事務局までご連絡ください。)

集会の要旨は、参加登録者ページに掲載し、各自で閲覧していただくようになります。

集会当日の参加受付はいたしませんので、**必ず**事前に参加申込み(事前振込)をお忘れなきようお願いいたします。

準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。

●オンライン事前参加申込受付：5月1日(水)～5月15日(水)

学会HPの画面左下にある＜六月集会参加申込システム＞から参加登録をしてください。

下記振込先に入金してください。入金が確認できない場合は、参加申し込みとなりませんので、ご注意ください。

※学部生も参加申込みが必要です(学生証添付の上、参加費無料)。

●参加費の支払い：一般・院生 1,500円／学部生 無料(但し、学生証添付)

※学会員の院生は1,000円(学生証添付)

振込先：ゆうちょ銀行

振替口座：00150-1-87773

口座名：日本社会教育学会

◎他金融機関からの振込用口座番号：〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)当座0087773

●問合せ先

日本社会教育学会事務局 <HP <https://www.jssace.jp/>>

〒189-0012 東京都東村山市萩山町2-6-10-1F

E-mail: jssace.office@gmail.com

(祝祭日除く月・木曜日 10:30-16:30 リモートワーク中)

□参加者への注意事項

- ・本大会は、原則「対面」での実施とします。
- ・天候や感染症等の影響により、開催方法等を変更する場合がありますので、参加される方は、必ず事前に学会 HP で確認するようお願いいたします。
- ・会場校の構内でのマスクの着用は任意です。ただし、状況次第では着用をお願いすることになりますのでご承知おき下さい。

□会場校連絡先

和田 悠

東京都豊島区西池袋 3-34-1

立教大学文学部教育学科 和田悠研究室

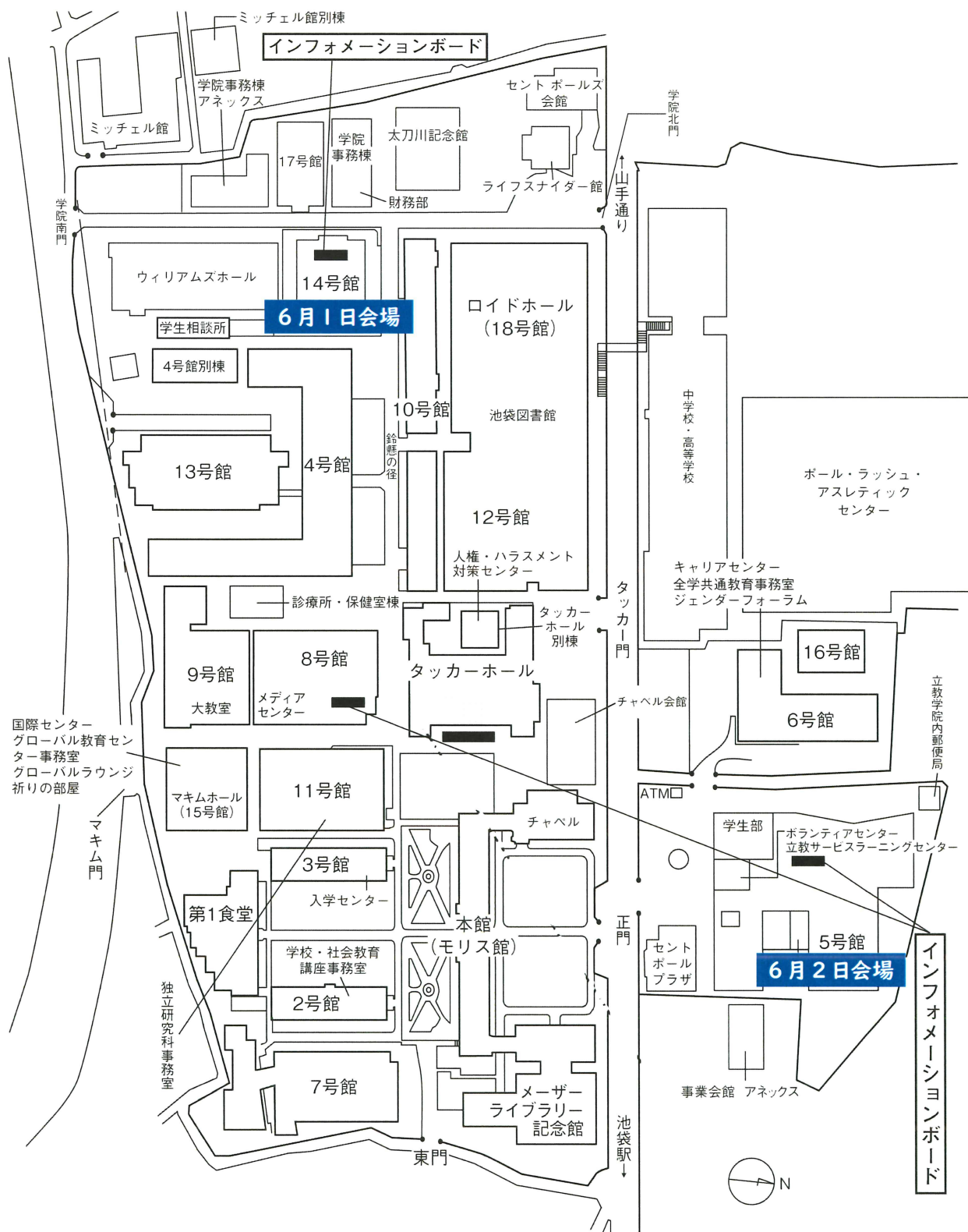
電話：03-3985-2480（研究室直通）

E-Mail アドレス : yuwada@rikkyo.ac.jp

□会場（立教大学 池袋キャンパス）アクセス



□会場（立教大学 池袋キャンパス）構内案内図



日本社会教育学会六月集会

立教大学 池袋キャンパス

【第1日 6月1日（土）】



プロジェクト研究「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」

13:00 ~ 16:00

テーマ 趣味活動と地域、家庭におけるその表現

司 会 坂内 夏子（早稲田大学）

コメンテーター 大澤 絢子（東北大学）、歌川 光一（聖路加国際大学）

報告Ⅰ 「大正・昭和初期における余技・南画家たちの暮らしと実践」

塚本 磨充（東京大学）

報告Ⅱ 「盆栽趣味の広がりと性格」

早川 陽（昭和女子大学）

報告Ⅲ 「都市農業と市民参加―農業経営の視点からの一考察―」

水上 亮（立教大学大学院）

報告Ⅳ 「吹奏楽部地域移行の成果と課題」

岡邑 衛（千里金蘭大学）

企画趣旨 余暇活動の中でも、当事者にとって単に楽しむに留まらず、ある程度こだわりを持ち、時間や金銭的負担も伴いながら継続性を伴って行われる活動は一般的に「趣味」と呼ばれる。近年の文化社会学では、趣味縁形成や趣味を通じた社会参加といったような趣味活動の社会性のみならず、よりミクロな視点から、人びとが趣味活動（Hobby）を継続させたり発展させていくための技法やプロセスにもついても着目するようになってきている。「趣味」を公教育と対比される際は、ともすればその享乐的、浪費的、耽溺的側面が照らされがちだが、当事者が真剣に継続的に取り組み、知識・技術も増し、結果としてその表現や成果が共感を得ていくようなプロセスにも目を向けることが必要だろう。

社会教育学においては「表現・文化活動」の研究蓄積があるが、よりミクロな視点から、それらを可能とする知識・技術の獲得状況、家庭における独学・独習やメディアを通じた学習をどう扱うか、という学習論の更なる検討が必要となる。また「表現・文化活動」と一般に「趣味」とくくられる活動において、それが生活者に果たす役割や表現方法においてどのような違いがあるのかといった視点からの検討も欠かせないと思われる。

今回の本プロジェクトでは、趣味活動が、地域や家庭でどのように持続的に実践され、表現され、時として社会性を帯びていくかという点について考えていきたい。趣味活動、アマチュア的生活文化の研究に携わっていらっしゃる研究者の方々に、それらの中で生起する学習や表現を通じ地域や家庭とどのような関係が構築されてきたかお話をいただく。これらの報告を受け、日本の self-cultivation（生きがい、修養論等）論や社会教育学における研究蓄積の接点について議論していきたい。

プロジェクト研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」----- 13:00 ~ 16:00

テーマ 多文化・多民族共生の取り組みにおける地域間格差

司 会 野元 弘幸（東京都立大学）・相良 好美（千葉大学）

報告Ⅰ 「在留外国人の地域差とその背景」

石川 義孝（京都大学名誉教授）

報告Ⅱ 「大阪における多文化共生実践の蓄積と継承 ―『集住地域』の一事例として―」

榎井 緑（藍野大学）

報告Ⅲ 「非集住地域の現状と課題」

新矢 麻紀子（大阪産業大学）・酒井 佑輔（鹿児島大学）

コメンテーター 能勢 桂介（立命館大学生存学研究所）

企画趣旨 多文化・多民族共生にかかわる取り組みが展開している中で、地域による制度・仕組みの違いから、実践において地域差がみられる。こうした実践の地域差の背景には、外国人の数・割合、男女比、出身国の違いがある。さらに掘り下げると、この差異は各地域の政治的・経済的位置および歴史的経緯を反映していることに理解が及ぶ。

この文脈をふまえた上で、六月集会では、どのような「地域間格差」があり、その格差の背景や要因をどう捉えるのか、そして、実践への影響をどのように考え、「格差解消」をどう図っていくのかを、「集住地域」といわれる大阪と非集住地域の事例を通して明らかにすることを目的とする。

社会教育士特別プロジェクト「関連領域から見えてくる社会の基盤を創る社会教育士」

----- 16:15 ~ 18:15

コーディネーター 内田 純一（高知大学）

報告Ⅰ 「大学・PTA 活動×社会教育士」

木村 貴（福岡女子大学）

報告Ⅱ 「学校教育×社会教育士」

岡部 洋右（杉並区教育委員会学校支援課指導主事）

報告Ⅲ 「俳優×社会教育士」

古賀 今日子（yum yum cheese!）

コメンテーター 牧野 篤（東京大学）、高木 秀人（文部科学省総合教育政策局地域学習推進課）

企画趣旨 先の研究大会では、本特別プロジェクトのキックオフとして、今後の総合的研究に向けての検討主旨や4つの部会の設定理由、そして各部会からこれから進める研究の方向性について報告を行った。そこで各部会による研究調査活動と並行して、近未来の「社会教育実践とは何か」を深めていく必要性を指摘した。社会的にも政策的にも、「社会教育士」称号

の登場によって「社会教育（実践）」像の組み換えがまったなしの状況にある。その状況下で社会教育研究の蓄積および現場の実践状況を踏まえて新たな像を提起すること、少なくともその議論の一步を拓くことが、本特別プロジェクトの役割と考えるためである。

そこで今回は先の 1 月に行ったオンライン学習会で社会教育人材部会長の牧野篤会員が「社会の基盤を創る社会教育」を提起していたこともうけ、公民館・社会教育行政など社会教育王道の現場ではなく、異なる関連領域で活動しながら「社会教育士」称号を得た方々の語りを通して、「社会教育実践」をめぐる新たな動きを描き今後を展望するところから議論を始めてみたい。「社会教育士」称号を得ることで彼らのそれまでの実践や見方がどう変化したのか、また実践にどのような展望を抱くようになったのか。

登壇は 3 名の方々にお願いする。今回は議論の筋を複雑にしすぎないように、社会教育士に登壇者を絞っている。ただしこの議論は今回で終えることなく、別途オンライン学習会方式で継続を試みたいと考えている。広く会員以外の一般の方々の参加も呼びかける。

【第2日 6月2日（日）】

 プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」

--- 9:00 ~ 12:00

テーマ 今、「ジェンダーと社会教育」を考えると：プロジェクト研究開始にあたって

司 会 辻 智子（北海道大学）、富永 貴公（都留文科大学）

報告Ⅰ 基調提案：本プロジェクト研究の趣旨

報告Ⅱ 基調報告：

社会状況（2000-2023）と「ジェンダー平等」「LGBTQ+/SOGI」「インターセクショナルリティ」
—政治、教育、労働、福祉・生存、災害・地域社会—

報告Ⅲ 政策・実践・運動の現状と検討課題

—「女性活躍」「ダイバーシティ推進」、「ジェンダーフリー」「性教育」、「家庭教育支援」、
家族・子育て、労働と学習、女性の学習、女性への暴力—

※報告Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、プロジェクト研究運営委員会（赤池紀子、阿比留久美、飯島絵理、
池谷美衣子、大村隆史、小河洋子、亀口まか、木下卓弥、島本優子、徐真真、辻智子、
富永貴公、中尾友香、野依智子、廣森直子、村瀬桃子、堀川修平、矢内琴江）が行う。

企画趣旨 年報『ジェンダーと社会教育』（2001年）以降、現在までの動向を踏まえ、現状とそこ
における検討課題を洗い出し、本プロジェクトの研究の課題を明確化する。約20年間の
社会状況の中で、男女平等・ジェンダー公正をめぐる問題および問題設定の仕方は、何が
変わったのか／変わっていないのか、そこにおける社会教育実践の特徴とは何か、社会教育研
究として本プロジェクト研究では、何をどのように探究していきたいのかを提起し、広く会員
からも意見をもらう。これにより本プロジェクト研究（2023年秋～2026年夏）の見通しを
立てる。

 会場企画「川崎の社会教育の現在 —指定管理者制度の導入で問われているもの」

--- 13:00 ~ 14:30

司 会 和田 悠（立教大学）

報 告 「川崎市の市民館・図書館への指定管理者制度の導入過程と課題」

角田 季美枝（和光大学）

コメンテーター 「自治体民営化と公共サービスの質の観点から」

尾林 芳匡（弁護士・八王子合同法律事務所）

開催趣旨 神奈川県川崎市では2023年10月に市議会定例会で市民館（公民館）条例と図書館
条例の改正案を決議し、指定管理者制度が導入されることになった。しかし、すんなり改

正案が通ったわけではない。2023 年 1 月、市教育委員会が「効率的・効果的な管理運営手法」として指定管理者の導入の検討を示唆したところ、社会教育施設に指定管理者制度はなじまないとする立場からの地域住民の運動が盛り上がりを見せた。指定管理者の導入の見送りと継続審議を求める署名活動が展開され、市議会議員へのロビイングや記者会見なども積極的に行われた。『神奈川新聞』をはじめとして多くのメディアでも取り上げられた。

指定管理者制度の導入過程で住民の手によって問われたのは、社会教育の公共性であり、それを可能にする行政のシステムであった。住民運動は、社会教育は誰のために、何のためにあるのかを真剣に考え、地域であるべき社会教育の像を追究するべく学習会を開き、引き続き行政や政治への働きかけを行なっている。逆説的であるが、指定管理者制度の導入は住民による社会教育の発見をもたらした。また、川崎市には社会教育委員会があり、この間、その存在意義も問われている。議事録を見ても、社会教育委員会では十分に指定管理者制度の導入について議論が尽くせていない。社会教育への住民参加において、社会教育委員会が果たすべき役割とは一体何であるのだろうか。

こうした問題意識を背景に、指定管理者制度が導入されようとする川崎の社会教育の現状と課題について、現在進行形の問題であることを意識しながら多角的に議論したい。よって、新自由主義時代における社会教育の公共性や住民自治のあり方を実践的に考究する。

ラウンドテーブル

14:45 ~ 16:45

① SDGs と社会教育・生涯学習

コーディネーター 田中 治彦（上智大学名誉教授）・荻野 亮吾（日本女子大学）

コメンテーター 若原 幸範（聖学院大学）・岩松 真紀（明治大学非常勤）・

後藤 聡美（神戸大学（日本学術振興会特別研究員 RPD））

開催趣旨 このラウンドテーブルでは、2023 年 9 月に刊行された本学会の年報『SDGs と社会教育・生涯学習』の合評会を行う。プロジェクトの内外から 3 名のコメンテーターを招き、社会教育・生涯学習研究としての意義や、年報としての到達点を確認するとともに、持続可能な社会と地域の形成に向けて残された研究課題のご指摘をいただく。その後、執筆者からの応答を行う。参加者からの発言も募り、今後の研究の方向性について議論したい。

②ドイツにおける子ども・若者支援における支援の重層性をめぐる調査研究から

—子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方(5)—

コーディネーター 生田 周二（奈良教育大学）

川野麻衣子（特定非営利活動法人 北摂こども文化協会）

報告者 生田 周二（奈良教育大学）

帆足 哲哉（広島国際大学）

川野 麻衣子（特定非営利活動法人 北摂こども文化協会）

コメンテーター 津富 宏（立教大学）

開催趣旨 2023年11月中旬に実施したドイツ調査の目的は、子ども・若者支援における重層性と補完性原理（非営利的な公益団体の活動支援の原則）をキーワードとした公と民の関係性の把握である。調査は4つの層、すなわち全国組織、自治体の青少年局、地域の事業団体・施設、研究機関等の計17箇所を訪問し、意見交換・資料収集を行った。青少年局と団体・施設の聴き取り結果の概要をキーワードをもとに検討し、今後の課題を考え合いたい。

③プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」についての

意見交換

コーディネーター 辻 智子（北海道大学）・富永 貴公（都留文科大学）

開催趣旨 六月集会プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」の内容をふりかえるとともにプロジェクト研究運営委員と会員・参加者との意見交換を行う（1時間程度で終了予定）。

第 48 回東北・北海道研究集会

東北大学

5 月 25 日(土) 14:00 ~ 17:00

5 月 26 日(日) 9:30 ~

地域再生への教育計画⑤ 一民から学校をアップデートするー

◇プログラム:

5 月 25 日(土) 14:00 ~ 17:00 シンポジウム

司 会: 宮崎 隆志(北海道文教大学)・石井山竜平(東北大学)

話題提供: 本間 悠資(北海道・浦幌「一般社団法人 十勝うらほろ楽舎」)

成宮 崇史(宮城・気仙沼「底上げ」)

青砥 和希(福島・白河「コミュニティカフェ EMANON」)

コメント: 辻 智子(北海道大学)

松本 大(東北大学)

5 月 26 日(日) 9:30 ~ 自由研究報告

開催趣旨 学校と地域の連携・協働の質を高めることが政策的にも重要視されて久しい。しかし、多くの場合、地域と学校の関係の質は、学校側が主催する会議への参加、事業へのボランティア協力、といった内容に限定されがちである。

その一方で、民的な事業体をつくり、事業としてより能動的に、そして深く、学校の仕組みに入り込み、学びの質を発展させるに至るケースも現れている。今回は、そうした実践知・経験知に学び、地域再生に向けた教育計画の課題を検討する。

◇会 場: 東北大学川内南キャンパス文科系総合研究棟(教育学研究科)

◇会 費: 一般 1,000 円、学生 500 円

◇申 込: 以下のフォームよりお申し込みください

<https://forms.gle/pyUW3SNun1vdgHQSA>

※自由研究発表希望者の締め切り: 2024 年 5 月 7 日(火)

※一般参加者の締め切り: 2024 年 5 月 17 日(金)

◇連絡先: 〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 27-1 東北大学大学院教育学研究科

松本 大 dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jp

7月6日（土）13:00～16:00

大学開放の今日的展開

◇プログラム：

司 会 上原 直人（名古屋工業大学）

報告1 「地方女子短大の大学開放一履修証明プログラムを一例として」

三瓶 千香子（桜の聖母短期大学）

報告2 「高等教育機関における人びとの社会参画につながる生涯学習・リカレント教育

―官・金・学の連携による岐阜大学地域協学センターの取組―

○益川 浩一 ○後藤 誠一 二村 玲衣（岐阜大学） ○登壇者

報告3 「韓国高等教育改革下の大学開放の展開

―大学開放プログラム『名誉学生制度』を中心に―

金 明姫（創価大学通信教育部・非）

コメンテーター 中山 弘之（愛知教育大学）

五島 敦子（南山大学）

開催趣旨 超高齢化と人口減少、科学技術や情報技術の高度化・複雑化など、私たちを取り巻く環境が急激に変化する中で、自己実現を図る場として、地域人材の育成の場として、そして社会人の学び直し場として、高等教育機関を開放していくことがこれまで以上に求められている。本集会では「大学開放の今日的展開」と題し、国内外の3事例をもとに、大学開放の現状と展望について議論を深めていきたい。

◇開催方法：ZOOM 開催（お申込みをされた方には後日、URL をご連絡します）

◇申込：事前申し込みをお願いします。

申込先 <https://forms.gle/bsAvRJbfRemmnJKM9>

申込締め切り 2024 年 6 月 28 日（金）

◇連絡先：上原 直人（名古屋工業大学）

電話：052-735-5117

Email：uehara.naoto@nitech.ac.jp

第 48 回 関西研究集会

大阪市立総合生涯学習センター

6 月 9 日 (日) 10:30 ~ 16:30

現場とともに交流と対話の方法をさぐる(3)

ー子ども・若者の学習支援を社会教育の観点からどう捉えるかー

◇プログラム:

午前 対談「豊かに生きるための学習支援とは」

挨拶 村田 和子(和歌山大学(名誉教授))

司 会 新矢 麻紀子(大阪産業大学)

対 談 津田 英二(神戸大学)・林 美輝(龍谷大学)

午後 事後報告と全体討議

司 会 田所 祐史(京都府立大学)

報告 1 『『制度の狭間』にいる子どもを高校につなぐ

ー地域日本語教室における学習・進路支援の取り組みー

棚田 洋平(一般社団法人部落解放・人権研究所)

報告 2 「子ども・若者の貧困と学習支援」

長澤 敦士(京都大学大学院)

報告 3 「インクルーシブな学びと学習支援」

辻合 悠(八尾市役所)・輪玉 芳野(神戸大学大学院)

◇会場:大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

(大阪市北区梅田 1-2-2-500 大阪駅前第2ビル 5 階)

◇アクセス:大阪駅・(西東)梅田駅・北新地駅より徒歩(5~10分)

◇申込:事前申し込みをお願いします。

ご参加を予定されている方は、次の URL から申し込みをお願いいたします。

google フォームズからの申し込みが難しい方は、問い合わせ先にご連絡ください。

<https://forms.gle/8nk9AM1E1hyngmqx6>

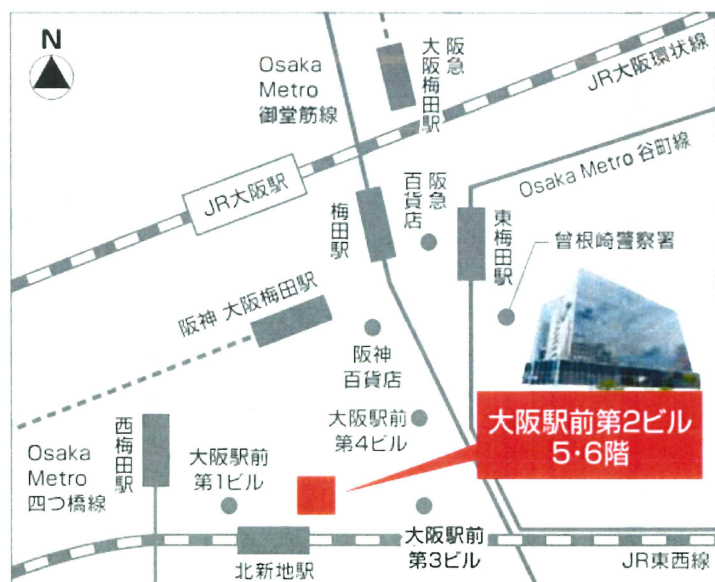
QRコード➡



なお、施設内は食事ができません。

昼食は近隣の食堂をご利用ください。

◇連絡先:林 美輝(龍谷大学)

Email: mhayashi@let.ryukoku.ac.jp

7月7日(日) 13:00～16:30

社会教育・公民館実践とSDGs・協働のまちづくり

◇プログラム：

司 会 内田 純一（高知大学）

報告 1 「倉敷市水島における環境再生のまちづくり ～協働の始まり、発展とこの先～」

藤原 園子（公益財団法人 水島地域環境再生財団）

今田 尚登（倉敷市福田公民館）

報告 2 「地域の未来を築く『雄神みんなで学校ごっこ』の取組み」

井上 恭一（雄神みんなで学校ごっこ実行委員長、雄神学区コミュニティ協議会長）

内田 光俊（岡山市立西大寺公民館長）

コメンテーター 齊藤 雅洋（高知大学）

◇会場：岡山市立西大寺公民館（〒704-8115 岡山市東区向州 1-1）

◇アクセス：

JR 赤穂線西大寺駅下車 徒歩 15 分

両備バス西大寺行き 西大寺バスセンター下車 徒歩 15 分

両備バス牛窓行き・宝伝行き 観音院入り口下車 徒歩 5 分

◇連絡先：内田純一（高知大学）

高知県高知市曙町二丁目 5-1 高知大学地域協働学部

電話：088-844-8940

Email：uchida@kochi-u.ac.jp



九州・沖縄地区六月集会

別府大学

6 月 22 日 (土) 13:00 ~ 16:00 (受付 12:20 ~)

地域の子ども・若者の居場所づくりと社会教育

◇プログラム:

司 会 長尾 秀吉 (別府大学)

コメンテーター 岡 幸江 (九州大学)

報告 1 「高校生による高校生のための居場所づくりと社会参加」

佐藤 淳子氏 (未来応援コミュニティ b-room ぶるーむ代表)

報告 2 「こども食堂における子ども・若者の居場所づくりと体験機会の保障」

渡辺 和美氏 (別府市:ハスノハ子ども食堂代表)

報告 3 「大分県の青少年団体・施設の動向と子ども・若者の居場所と社会参加の促進に向けた取組」

馬場 尚登 (大分県立図書館副館長 兼 学校・地域支援課長)

◇会場: 別府大学 32 号館 400 番教室

住所: 〒874-8501 大分県別府市北石垣 82 別府大学・別府大学短期大学部

◇アクセス:

- ・JR 日豊本線…別府大学駅から徒歩 約 10 分 (別府駅から上り普通電車に乗りかえ、別府大学駅 (4 分))
- ・タクシー・バス…別府駅からタクシー 約 15 分、バス 20 分
(別府駅東口 亀の井バス 20 番「別大前」下車、23 番「別府大学下」下車)
(別府駅西口 亀の井バス 6 番「別府大学下」下車)
- ・大分自動車道…大分自動車道「別府 IC」から車 約 7 分
- ・大分空港…大分空港からバス 約 50 分 (別府方面のバス 別府国際観光港前下車)

◇申込み: 事前申し込みをお願いします。締切は 2024 年 6 月 15 日 (土)

<https://forms.gle/mXTmEyHSs5v9xcwd8>

→ QR コード



◇参加費: 無料

◇連絡先: 長尾秀吉 (別府大学)

Email: nagao@nm.beppu-u.ac.jp

〒874-8501 大分県別府市北石垣 82



キャンパスマップ 32 号館

→ QR コード参照



日本社会教育学会 2024 年度六月集会・研究集会プログラム

2024 年 4 月 26 日発行

【発行】日本社会教育学会事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail : jssace.office@gmail.com <https://www.jssace.jp/>

【会費等納入先】

ゆうちょ銀行 振替口座 00150—1—87773（口座名：日本社会教育学会）

他金融機関からの振込用口座番号 〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773
